

# 笑顔大好き

発行者：常井洋治  
〒319-0205 笠間市押辺1745  
TEL.0299-45-6818  
FAX.0299-45-0818



▲いばらき自民党の政調会長として、議員提案によるがん対策条例の制定に向けて勉強会を続けています。本県のがん対策の施策は、全国トップクラスの評価を得ていますが、それでも検診率が50%に届かないため、条例化により、検診率を向上させて、がんによる死亡者数（茨城県は年間約8,500人）を減らしたいのです。第5回勉強会にて、左は伊沢筆頭副会長、右は館保健福祉部会長。（H27年6月）

## 茨城県議会が戦後70年に当たり、平和を願う決議

戦後70年を迎えるに当たり、平和を次代に継承していく県議会の意思を明確にするために、日本共産党を除く全会派の議員が一致して次の決議をしました。私はいばらき自民党政調会長として、決議案の上程に参画しました。

### 戦後70年に当たり平和への願いを次代に継承する決議

本年は、我が国にとって戦後70年を迎える大きな節目の年である。

この機に当たり、私たちは、平和な現在を享受する者として、先の大戦において、祖国の平和を切に願い、これを後世に託し旅立たれた多数の先人に対し、改めて、深い敬意と哀悼の意を表する次第である。

同時に、我が国が、今後とも平和国家への道を確実に歩んでいけるよう、先人から受け継いだこの平和への願いを次の世代にしっかりと継承していくことが、私たちに課せられた大きな責務であると、強く認識するところである。

そして、本県においても多数の方々がかつて戦没されるとともに、空襲や艦砲射撃などにより甚大な戦禍を被ったという状況に鑑みれば、県として、強い信念と行動をもって、その責務を全うしていくことが肝要である。

よって、本県議会は、下記事項の推進に、総力を挙げて尽力する。

記

- 1 戦争体験者が減少していく中、その貴重な記録と記憶とを次の世代にしっかりと引き継いでいくとともに、次代を担う子ども達に対し、平和を尊びこれを希求する心を醸成する教育を広範かつ継続的に施していくこと。
- 2 戦時下、若者たちの尊い想いと共にあり、往時を偲ばせる「旧筑波海軍航空隊司令部庁舎」の貴重な歴史的・文化的価値に鑑み、これを、末永く保存し顕彰するとともに、「筑波海軍航空隊記念館」の運営を支援すること。
- 3 本県の戦史を現在に伝える「予科練平和記念館」及び「筑波海軍航空隊記念館」を、県民が広く戦争の悲惨さを理解し、かつ、平和への願いを紡ぎ次代に継承していくための拠点として、有効に活用していくこと。

以上、決議する。

平成27年6月18日

茨城県議会

## 映画「筑波海軍航空隊」上映 9月中旬頃から水戸内原イオン・笠間ポレポレで上映予定。ぜひ、ご覧ください。

常井洋治が第3回定例県議会で、いばらき自民党の代表質問を行います。ぜひ、傍聴においでください。

平成27年9月9日(水) 午後1時から2時40分まで予定。問い合わせ：県議会事務局 TEL 029-301-5634

# 地元笠間市を元気に！ とこい洋治が皆さんとがんばります。

## 水戸土木事務所との勉強会で進行状況をチェック (H27年6月17日)

### 道路関係

#### ①国道355号笠間バイパスの整備促進 (手越～石井) (27年度予算：89,000千円)

L (延長) = 5,200m W (幅員) = 18~6.5m

- 平成26年10月に、涸沼川の渡河区間 (下市毛橋 L=55m) を含む県道笠間つくば線までの900mが開通した。芸術の森公園入口付近の現道拡幅660m、国道50号石井交差点からJR水戸線を跨ぐ2,300mと合わせ、全体計画延長5,200mのうち、3,860mが供用済み。(全線開通は、平成31年の茨城国体前を目指す。)
- 今年度は、県道笠間つくば線からJR水戸線を跨ぎ芸術の森公園付近までの約1,340mの未整備区間の残る用地の取得及び一部の道路改良工事を実施する。

#### ②平友部停車場線 (大沢跨線橋～県立こころの医療センター前) の整備促進 (27年度：90,000千円)

L = 980m W = 16/6.5m

- 平成25年度までに畜産試験場跡地前の約180m区間の道路改良舗装工事が完了。
- 平成26年度に用地測量を完了させ、併せて畜産試験場跡地利用を踏まえた流末設計を実施。(総事業費は、約10億円を見込む。)
- 今年度は、一部用地の取得及び流末排水路の工事を実施する。

#### ③大洗友部線 (橋爪地内) の整備促進と宍戸橋の早期架替 (27年度：24,000千円)

L = 1,050m W = 10.5/6.5m

- 県道大洗友部線の幅員狭小区間の現道拡幅 (L=560m) を先行させる方針。(涸沼川河川改修、宍戸橋架け替えと合わせて三点セット)
- 平成26年度に道路詳細設計を完了させ、今年2月、県道の拡幅に関する事業説明会を開催したところ、概ね出席者の了解が得られた。
- 今年度は、用地測量及び補償調査等を実施する。

#### ④杉崎友部線 (小原地内) の整備促進 (27年度：6,000千円)

L = 1,600m W = 12/6m

- これまで土地開発公社資金を利用し、畑総地区における創設換地分の用地を取得 (資金はH23,24年度で返済済み)。
- 国道50号側の現道拡幅区間、畑総地区のバイパス区間、友部駅側の久保下寺地区の現道拡幅区間の3工区に分けられるが、通学路に指定されている久保下寺地区の現道拡幅を優先する方針。

- 今年度は、地元関係者との計画調整を進める。

#### ⑤稲田友部線 (本戸地内) の整備促進

L = 2,260m W = 11/6m

- 全体計画延長2,260mうち、市道タッチから友部駅方面側までの1,700m区間の整備が完了。
- 平成26年度は、旧道部460m区間の舗装修繕等の移管道整備工事を実施した。今年度は、この区間を笠間市に移管する手続きを実施する。

#### ⑥富谷稲田線 (稲田地内) の整備促進

L = 2,100m W = 11/6m

- 曲折かつ幅員狭小区部の拡幅用地の補償調査等を実施する。

#### ⑦石岡城里線バイパス (茨城中央工業団地 (笠間地区)) 整備促進

- 茨城中央工業団地 (笠間地区) の企業立地の状況を踏まえながら、整備方針を検討する。



▲水戸土木事務所の小泉所長 (左) ら、幹部との勉強会も16回目。数々の要望実現ができた。(H27年6月)

#### ⑧上吉影岩間線 (下郷地区羽鳥方向踏切の整備) の整備促進

L = 160m W = 8.5~5.5m

- 踏切東側の道路拡幅 (歩道設置) の整備が完了後に、踏切拡幅工事を実施することでJRと協議済み。
- 県が測量・設計及び工事、笠間市が用地取得を行う。
- 平成26年度に道路詳細設計を完了させ、昨年7月、事業計画説明会を開催したところ、概ね出席者の了解が得られた。その後、用地測量に着手し完了。
- 今年度は、笠間市による用地買収が開始される予定。

#### ⑨道路の補修修繕 (27年度：23,000千円)

- 国道355号 (手越地内) と友部内原線 (東平地内) の路面の傷みが著しい区間の舗装修繕工事を実施する。

#### ⑩橋梁の修繕 (27年度：35,000千円)

- ・県道大洗友部線長兎路橋（常磐道架橋）の橋梁修繕工事（舗装、ジョイント）を実施する。

## 河川関係

### ⑪酒沼川の改修事業の促進（中流工区 L=9,300m）（27年度：40,000千円）

- ・JR常磐線より穴戸橋までの680mについて、主要地方道大洗友部線の整備とあわせ、河川の付け替えを行う。
- ・今年度は、大洗友部線が張り出す区間の河川改修工事を実施する。（河川の流路を変えて、県道拡幅のための敷地を生み出す。）

左岸L=160m 河道掘削、築堤、護岸整備

### ⑫酒沼川の改修事業の促進（笠間工区 L=2,400m）（H26経済対策：60,000千円）

- ・JR水戸線から国道50号までの河川改修を下流から進めており、昨年度から柳堰の改築に着手。
- ・柳堰については、代替えの取水施設を整備し固定堰を撤去することにより、出水時の流下能力の向上を図る。
- ・今年度は、取水施設及びポンプの設置、護岸の整備を行い、堰を撤去する。

### ⑬酒沼川改修計画の検討

- ・平成26年10月の台風18号に伴う豪雨により、南吉原地区など笠間市内の数ヶ所が浸水し、大きな被害が発生。
- ・今年度は、浸水被害を少しでも軽減するため、事業区間内の河道を調査し、優先的に改修する箇所を選定し、対策を検討。

### ⑭酒沼前川の土砂撤去（小原地区、中市原地区 河川防災事業）

- ・平成21～25年度において、小原地区の江戸橋から谷津田橋までの1.5kmのうち960mの土砂撤去が完了。
- ・今年度は、中市原地区（国道50号下流200m）の土砂撤去工事を予定。

### ⑮間黒川の土砂撤去（箱田地区 河川防災事業）

- ・平成22～26年度において、箱田地区の第4用水機場区間～くにも橋700m区間のうち、550mの土砂撤去が完了。
- ・今年度は、適宜、流れが悪い箇所の土砂撤去を予定。

### ⑯片庭川の改修事業の促進（箱田地区圃場整備地区 河川防災事業）

- ・平成24～26年において、土地改良区から創設換地分の用地約32,000㎡のうち約8,780㎡を県が取得。
- ・今年度も引き続き、用地取得を予定。（26年度取得費2,200万円。残金は1億円余）

### ⑰桜川、随光寺川の土砂撤去（上郷地区 河川防災事業）

- ・平成20～25年度は合計2kmの土砂撤去が完了。
- ・今年度は、適宜、流れが悪い箇所の土砂撤去を予定。

### ⑱枝折川の土砂撤去（住吉地区 河川防災事業）

- ・今年度は、新たに県道水戸岩間線（岩間街道の「高橋」）から上流150m区間（友部二中脇）のうち、50mの土砂撤去工事を予定。

### ⑲巴川JR常磐線付近の浸水軽減（岩間地区 河川防災事業）

- ・平成22～26年度は浸水軽減のため、土砂撤去や法面補修を実施。
- ・今年度は、法面補修を行うとともに、浸水軽減策を地元等と検討する。

## 公園関係

### ⑳笠間芸術の森公園（27年度：8,000千円）

- ・平成26年度に南門脇の広場に耐震性貯水槽（約6,000万円）を設置し、緊急時の飲料水の確保を図った。併せて、広場の整備を実施した。
- ・今年度も引き続き、貯水槽を設置した広場の整備を進める。

## 総務企画委員会質疑（要旨）（H27.6.12）

- 選挙権年齢の引き下げによる有権者数の状況は
- 中学生・高校生を対象に選挙啓発を
- 選挙権年齢引き下げを契機に投票率の向上を
- 個人県民税の特別徴収の効果は
- サイバーダイニング社の福島県への生産拠点設置の理由は何か

**常井委員** 早ければ1年後（平成28年）の参議院選挙から選挙権が18歳に引き下げられることになるが、有権者はどの程度増加する見込みか。

**齋藤市町村課長** 現在の20歳以上の有権者が約238万8千人であるが、18歳・19歳の人口を踏まえると、選挙権の引き下げにより、有権者は約5万7千人、約2.4%増加する見込みである。

**常井委員** 若者が政治に関与することは大いに歓迎すべ

きだ。また、職業意識の醸成という面から見ても、政治との関わりは非常に重要であることから、高校生だけではなく、中学生も対象とした選挙啓発を行うべきだ。

**齋藤市町村課長** 現在、中学校3年生を対象に、「5年未来」という副読本を作成しているほか、生徒が「5年後の私へ」という自分あてのメッセージを送り、選挙時等にそれが郵送される啓発事業を実施している。今年度はこれらの内容をリニューアルするとともに、教育委員会とも連携し、ハイスクール議会の開催に向けて協力していく。一方で、選挙犯罪の内容によっては未成年者でも刑罰の対象になることから、その点についても十分に啓発していく。

**常井委員** 先進国では、そのほとんどの国で選挙権は18歳になっている。18歳に引き下げている国において、引き下げた時点の投票率の状況はどうなっているのか。「選挙権年齢を引き下げ、投票率が上がった」と言えるよう頑張りたい。

**齋藤市町村課長** 選挙権年齢の引き下げに関する国会での参考人意見陳述の資料によると、世界の80%以上の国で選挙権は18歳になっており、ヨーロッパの一部の国では16歳に引き下げている国もある。また、これらの国々では10歳代の投票率は20歳代よりも高く出ているという状況もあり、今回の年齢引き下げを契機に、投票率の向上に努めていく。

**常井委員** 今年度から、県内全市町村で個人県民税の特別徴収が始まったが、これによって徴収率は上がるのか。今回の特別徴収をきっかけとして「徴収すべきものは徴収していく」機会にしていくべきだ。

**齋藤市町村課長** 現年分については、これまでの普通徴収よりも、今回の特別徴収の方が徴収率は上がる。なお、過年度分の滞納(未徴収額)は約84億円あるが、納税者の公平性の確保等を踏まえ、今後もしっかりと対応していく。

**常井委員** 「ロボットスーツHAL(ハル)」で有名な、つくば発のサイバーダイン社が福島県郡山市に生産拠点を設けると聞いたが、つくば国際戦略総合特区でロボットをプロジェクト事業にしていながら理解できない。

**矢口科学技術振興課長** サイバーダイン社からは、その理由として、「福島県の復興に貢献したいという思いが強いこと」「国の復興予算を財源として、福島県が事業費11億円のうち約8億円の補助金を設けていること」などと聞

いている。

**常井委員** ロボット産業は物すごく魅力的だ。研究から開発、生産すべてがつくばや茨城県内で行われることが望ましいことであり、「つく

ば発・郡山着」になってしまっただけでは、何の意味もない。本県に生産拠点を作って欲しいという姿勢を、何としても見せるべきではなかったのか。ベンチャー企業は生き残りをかけて有利なところへ行ってしまいう可能性がある。サイバーダイン社は、今でもつくばに拠点をつくりたいと、県有地購入の打診をしていると聞かすが、その思いに応じて、県はスピード感を持って対応すべきだ。

**野口企画部長** サイバーダイン社と意見交換をする中で、会社としての経営戦略がある一方、「つくば」に対する思いは強く、また、(つくばで)人を支えるロボットが日常的に活動するまちづくりをしたいという思いを感じている。同社のスピード感は物すごく早いので、県として今後も努力していく。



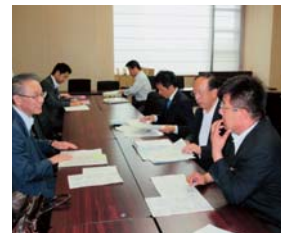
▲総務企画委員会での質問。(H27年6月)



▲穴戸小学校の運動会では、伝統校らしくきびきびした競技が繰り広げられた。開会の言葉を述べる1年生。(H27年5月)



▲筑波海軍航空隊の17回目の慰霊祭では、私が提案してきた地元の小・中学校4校の代表の参列が初めて実現。平和への願いを次代へ継いでいきたい。(H27年5月)



▲議員提案のがん対策条例について、アドバイザーをお願いしている永井秀雄県立中央病院名誉院長(左手前)との勉強会を実施。(H27年6月)



▲がん対策条例プロジェクトチームは、水戸二高でのがん教育の授業を視察。いばらき自民党の21人の県議が参加した。(H27年7月)



▲県知事杯職場対抗アームレスリング大会が内原イオンで開催された。立川美登会長、磯野武夫実行委員長の熱意で13回目の大会となった。(H27年6月)



▲いばらき自民党青年局の街頭遊説に政調会長として参加。若手議員の行動力はすばらしい。(H27年6月)



▲4年ぶりに梅干しづくりに挑戦。妻のレシピと監修に忠実に南高梅50kgを仕込んだ。(H27年6月)



▲ベトナムと茨城県の交流に尽力されたドアン・ファン・フン大使の送別会にて、若い国をリードするエリート外交官たちと歓談。(H27年6月)



▲県看護連盟(高野洋子会長)は、会員が年々増加して現在約5,000名。看護師は、高齢化社会を支えるキーパーソンとして重要な役割を期待されている、と総会で述べた。(H27年6月)



▲第35回福原学童野球近隣交流大会は雨の中での開会式だった。選手宣誓は、福原野球スポーツ少年団主将の伊藤翔君。(H27年6月)



▲夏の高校野球に出場する友部高校と水戸平成学園高校の連合チームの壮行会に出席。水戸商で甲子園2回出場経験のある新任の山崎純一監督の熱意で、いつの日か甲子園に。(H27年6月)



▲自民党県連青年局の大会で、県連役員を代表してあいさつ。自民党を支える青年局の活動に頼もしさを感じた。(H27年6月)